



ろうさい病院 つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

院長新任と病院還暦のご挨拶:

「納得、安心、そして未来へ」



中部ろうさい病院 院長 加藤 文彦

日頃は当院の病診連携・病病連携にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

2013年1月から私が院長代理を務めて参りましたが、2015年1月より院長を仰せつかりました。今後とも宜しくお願い申し上げます。

さて、当院は1955年3月22日に開院しましたので、本年度で満60年、還暦を迎えたこととなります。その様な年に院長を仰せつかったからといっては何ですが、平成27年度より病院の理念を改めることといたしました。

これまでの理念は堀田饒名誉院長が作られたもので「皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます」というものでした。「医療とは人と人との関わり合いに他ならない」というのが私の持論ですので、この理念はとても共感を覚えるものなのですが、他の病院の理念に比べてやや長い。「Simple is the Best」というのも私の基本精神ですので、この際思い切っ

て短くしました。「納得、安心、そして未来へ」というのが新しい病院理念です。一方、病院の基本方針は、医療の質の向上や、医療安全、患者さん中心の医療、地域医療連携、勤労者医療などが掲げられており、特に変更すべき事もないと考えましたので、今までと同じです。

「医療とは人と人との関わり合いに他ならない」という持論から、まずは「納得」という言葉を先頭に持ってきました。頭で判断・納得してから人は行動を起こすわけですが、その行動はやはり適切で安全・安心なものでなくてはならないと考え、「安心」を二番目としました。最後の言葉は当初「発展」と考えたのですが、結局「未来へ」としました。「未来へ」の方が「発展」よりも教育や応用力などより広い意味が含まれると考えたからです。近在の先生方、住民の方々と共に、当院は「未来へ」に向かって着実に進んでいきたいと考えておりますので、今後ともどうぞ宜しく御理解、御支援の程、お願い申し上げます。

呼吸器外科のご紹介

呼吸器外科部長 菅谷 将一



陽春の候、先生方におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成19年4月に中部ろうさい病院に呼吸器外科が開設して約8年が経過いたしました。今年（平成27年）の1月までに620例（原発性肺癌300例）の手術を行うことができました。これもひとえに先生方から多くの患者さんをご紹介いただいた賜物と心より感謝申し上げます。

原発性肺癌は日本でも年々増加の傾向を示し、1993年には男性では胃癌を抜いて悪性腫瘍の中で死亡原因の第1位となりました。女性においても増加傾向は同様であり、1998年には、男女合わせた癌死亡原因の第1位となりました。2000年には、肺癌による死亡数は53,702名、2013年には72,734名となっており、今後さらに増加し15-20年後には、現在の約2倍の死亡数が予想されています。

当科では、呼吸器内科と協力して肺、縦隔、胸壁疾患の外科治療を行っています。具体的には、肺癌をはじめ、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍、膿胸、肺嚢胞症、自然気胸、胸部外傷などの診療を行っています。

肺癌においては、CTなどの画像診断の進歩・普及により、従来の胸部単純X線写真では指摘困難な薄い2cm以下の末梢小型肺腺癌が発見される頻度が増加しています。このような症例は手術により十分根治可能です。当院では、そのような薄い病変の詳細な評価が可能な64列マルチスライスCT 2台をはじめ、さまざまな診断機器を整備しています。さらに、呼吸器内科においては、超音波内視鏡や細径気管支鏡を導入することにより、末梢小型肺腺癌を含めた肺癌の術前診断率が向上してきています。このように当院では呼吸器内科・呼吸器外科が協力

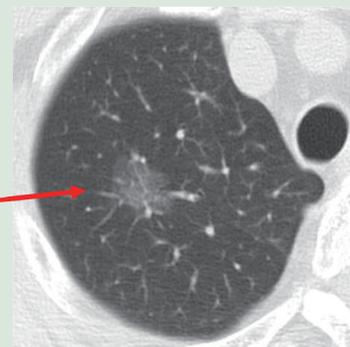
して肺癌の早期発見・早期治療に努めています。

現在行われている肺癌の治療としては手術療法、化学療法、放射線療法などがありますが、治癒の可能性は手術が最も高いのが現状です。当科では、平成27年度上半期にハイビジョン内視鏡下システムを導入予定で、より鮮明な画像が得られることで、患者さんにとってさらに低侵襲で安全な胸腔鏡手術を行うことが可能となります。また、進行した病期の患者さんに対しては、呼吸器内科と協力し術前化学（放射線）療法など集学的治療により切除率の向上に努めており、進行度に応じた治療を選択しています。

当科では、昨年4月より下川秀彦副部長が着任し常勤の呼吸器外科専門医2人体制で、より水準の高い医療を提供できると考えています。

これからも肺癌をはじめとした肺、縦隔、胸壁疾患の治療に取り組んでいく所存ですので、先生方には今後とも益々のご指導・ご鞭撻を賜りますよう何卒宜しく願いいたします。

小型肺癌 胸部CT



胸部単純X線では指摘困難な病変でしたが、胸部CTにて、すりガラス影を認めました。細径気管支鏡検査で腺癌と診断されました。

放射線科のご案内

放射線科部長 真下 伸一



いつも先生方にCT、MRI検査の患者さんをご紹介を賜りありがとうございます。昨年10月に新しいCTが導入されましたのでご報告いたします。

最近の放射線領域の話題としてとくに大震災以来、被曝低減が重要視されておりますが、それになかった GE Optima CT 660 Discovery Edition 64列検出器を導入することができました。(8列CTの更新として)すでに1台64列は稼働しており、同じ64列なのでそれと大きな違いが無いように思いますが内容は大幅に改善されています。X線管球の改善(小焦点化)、検出器の進化、データ収集方法の進化、新たなソフトウェアの開発などにより、分解能の向上、アーティファクトの低減、被曝低減(従来比60%)、不整脈対策、ワークステーションの機能向上などが得られています。あらゆる領域での向上が得られますが、特に冠動脈領域において有用と思われ画質向上が得られています。



また、骨粗しょう症は最も有病率の高い疾患であり最近話題となっておりますが、まだまだ見過ごされてしまうことが多い疾患です。当放射線科では骨塩定量装置も2012年に GE POROGIDY Primoに更新されております。非常に優れた装置であり、腰椎、大腿骨頸部での測定の信頼性も高く、簡単に検査をすることができます。被曝量も腰椎で40 μ Svと少ないです。骨塩定量検査は単純撮影と同じように予約なしでも可能としております。患者さんは実際に画像としてデータを見せられると治療の必要性を実感するのではないのでしょうか。

今後、装置の使い方、マンパワーの改善なども図って先生方のご要望に応えたいと思っております。

いずれの検査も地域医療連携室を通して行うことができますので、先生方の検査室として使っていただければ幸いです。



地域医療連携室だより

平素より、連携医療機関の先生方には大変お世話になっております。

今年度は、「地域医療支援病院」の紹介率・逆紹介率の計算方法等の見直しがあり、紹介率50%、逆紹介率70%が指定要件となりました。

登録医の先生方のご協力により、2月までの実績で、紹介率は53%を超え、逆紹介率は86%となり引き続き基準を満たすことができる見込みとなりました。

また、紹介患者さんは、6年連続で前年度実績を上回ることができ、平成26年度も多くの患者さんをご紹介いただきました。(表)

改めて、地域完結型医療へのご理解と円滑な医療連携にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

平成27年度も引き続き、一層の信頼とご厚情を賜れるよう、急性期治療の終了した患者さんの逆紹介や、ご紹介いただいた患者さんへの高度な医療とともに、タイムリーな情報提供を心がけて参りますので、引き続きご指導とご鞭撻をお願いいたします。



医師交代

☆退職 (平成26年12月7日付)
服部 健一 第二脳神経外科部長

☆退職 (平成26年12月31日付)
高須 俊太郎 第三脳神経外科部長

☆採用 (平成27年1月1日付)
龍華 章裕 腎臓内科医師
太田 圭祐 脳神経外科医師

☆補職 (平成27年1月1日付)
加藤 文彦 院長

☆補職 (平成27年2月1日付)
若松 正樹 副院長
麻酔科部長 (事務取扱)
中央手術部部長 (事務取扱)

開田 剛史 麻酔科副部長
濱田 卓也 リウマチ科医師

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、
苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を
送れるよう職員一同努めます。

(平成27年4月より)

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30)
052-652-5950 (TEL)
052-652-5716 (FAX)

室長：加藤 文彦 (院長)
藤田 芳郎 (副院長)
事務担当：今関 信夫・高間 仁美・
内藤 遵子・金井 久実